



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2015 8



7月3日(金)、兵庫県民会館において「第93回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会」を開催。県内の生協・農協（JA）・漁連（JF）・森林組合（JForest）の組合員や役職員をはじめ、330人がつどいました。また、さわやか福祉財団 弁護士 堀田 力氏が「地域福祉と協同組合の役割」と題して記念講演を行いました。（関連ページ P.3）。

兵庫県民の皆様“生協があつてよかった”と思っただけの生協運動の、さらなる発展に向けて



兵庫県生活協同組合連合会 専務理事

野間 誠
(のま・まこと)

『就任のあいさつ』

6月23日(火)の第65回通常総会と第1回理事会におきまして、兵庫県生活協同組合連合会(兵協連)の専務理事に選任されました。就任をいたし、改めて、その重責に身の引き締まる思いです。

兵協連の33会員(購買生協、大学生協、医療生協、共済生協)の皆様からご信頼をいただけるよう日々精進いたしてまいります。

そして、兵庫県民の皆様“生活協同組合(生協)があつて良かった。生協があるまちでくらしたい。くらし続けたい”と思っただけのよう、会員生協の皆様とご一緒に、力を合わせ、生協運動の発展に尽力してまいれる所存です。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

『兵協連の役割について』

兵協連の定款(第1章総則の(目的)第1条)に『この生活協同組合連合会の事業の発展を図り、会員の構成員たる組合員の生活の文化的経済的改善向

上を図ることを目的とする』が、あります。

また、第65回通常総会でご承認をいただきました。

『2015年度の活動計画の骨子』

- (1) 東日本被災地支援と阪神・淡路大震災20年の取り組み
- (2) 消費者市民社会づくりを推進する取り組み
- (3) ポスト国際協同組合年の取り組み
- (4) 被爆・終戦から70年、平和の取り組み

『基本テーマ』

『コミュニティ・ネットワークの構築』『協同が息づく兵庫のまちづくり』を実現するための重点課題

- ① 会員生協の組織・経営基盤の強化に貢献します。
 - ② 会員生協間の事業と活動の連携と交流を促進します。
 - ③ 協同組合間協同の前進をはかります。
 - ④ 行政並びに関係諸団体との連携・交流をすすめます。
 - ⑤ 暮らし、平和、福祉、環境など社会的課題に取り組みます。
- 兵協連の目的を肝に銘じ、2015年度の計画と重点課題、一つひとつを大切に、丁寧に推進し、会員皆様のお役に立ちができるようすすめてまいります。

『大切にしたい賀川豊彦の残した言葉』

1923年(大正12年)9月1日11時58分に発生しました【関東大震災】

の時、神戸で活動していた賀川豊彦は、震災後すぐに関東に入り被災者の支援活動に取り組みました。

その時の活動を通して、賀川豊彦が残した言葉があります。

被災者の、目となり、耳となり、口とならなければならぬ。そして、ここを尽くせ——

この言葉は、私自身の心に深く刻まれ大切にしたい言葉となっています。賀川豊彦の残した言葉と志を、いつも肝に銘じ、組合員のくらしに寄り添い、『平和とよりよい生活のために』今、そして、これからの生協運動発展のために微力ですが、一生懸命務めてまいります。

『おわりに』

日本社会におけるさまざまな課題「少子超高齢化社会(社会保障・介護、福祉・子育て)、平和、環境、食料・農業、格差・貧困社会、消費者被害問題」等々があり、県民の皆様は、ますます不安な状況にあります。会員生協の皆様とご一緒に、力を合わせ、生協運動を推進し、『自助・互助・共助・公助』の地域社会づくりへの一翼を、生協が担い、『本当に、生協があつてよかった』と思っただけのよう、推進してまいります。

会員生協皆様の、兵協連へのご理解ご協力と、引き続きのご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 2. 想点 | 6. 協同組合のかけ橋 |
| 3. 第93回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 報告 | 7. 兵庫県のページ/ヨッシーの窓 |
| 4. 単協通信 神戸医療生活協同組合/
尼崎医療生活協同組合 | 8. 2015年度 第1回 東日本被災地支援活動 報告/
県連日誌/編集後記 |
| 5. 単協通信 神戸市民生活協同組合/
姫路市民共済生活協同組合 | |

国際協同組合デー 兵庫県記念大会を開催

7月3日金、兵庫県民会館 けんみんホールにおいて、「協同の力で未来を拓く」をテーマに、「第93回 国際協同組合デー 兵庫県記念大会」を開催しました。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様をはじめ、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）を組織する生協、農協、漁協、森林組合の主催者団体の役員、組合員など、330人が参加しました。

世界の協同組合に携わる人々が、平和とよりよい生活を築くために運動の前進を誓い合う「国際協同組合デー」は、毎年7月の第1土曜日と定められており、兵庫県では毎年7月の第1金曜日に開催しています。また同日に、第32回兵庫JCC委員会が併せて開催され、各協同組合（連合会）のトップが参加。活動報告および年度方針の確認、意見交換などを行いました。

当日は、新保 雅子さん（生活協同組合コープこうべ）の司会で開幕。兵庫県、神戸市をはじめ多くのご来賓の皆様をはじめ、合わせて330名が参加。会場は満席になりました。

第一部の記念式典では、主催4団体を代表して兵庫県漁業協同組合連合会 山田 隆義会長が挨拶。続いて、兵庫県農政環境部農林水産局長 山内 博司様、神戸市産業振興局 農政部長 清水 義一様からご祝辞をいただきました。

最後に、淡路日の出農業協同組合 理事 横山 孝枝さんが「私たちの身のまわりから協同の関係をつくり出し、『食の安全・安心』や『環境の保全』にかかる取り組みをさらに前進させよう」と、「第93回 国際協同組合デー・兵庫JCC宣言」を力強く読み上げ、満場一致で採択されました。

第二部の記念講演では、公益財団法人 さわか福社財団会長 弁護士 堀田 力氏を迎えて、「地域福祉と協同組合の役割」と題して記念講演。

従来の地縁組織（町内会、自治会、老人会など）を活性化させ、助け合い活動をすすめた事例をふまえて、「手軽に助け合えるニーズを知り、喜ばれるサービスを、ネットワークを組んで住民同士が一緒にできることで、つながり・ふれあいのある地域づくりが行われています」と話され、会場の参加者は「家庭」と「地域」の力で助け合うことの意識を高めながら新しい地域支援のあり方について学びました。



挨拶する 山田 隆義 JCC 副会長 (JF 会長)



兵庫県
山内 博司 農林水産局長



神戸市
清水 義一 農政部長



講演される 堀田 力 氏



JCC 宣言を読み上げる
淡路日の出農業協同組合
横山 孝枝 理事

第93回国際協同組合デー兵庫 JCC 宣言

国連が宣言した「国際協同組合年」から3年が経ちました。私たち兵庫 JCC は、「協同組合の源流を訪ねる旅」「兵庫におけるポストIYC を考えるつどい」「協同組合研究交流会」等に取り組みました。その中で、協同組合間の連携をより強固なものにし、協同組合の果たすべき役割とは何かを見つめなおしてきました。

協同組合とは、自らの生活や地域・社会をより良いものにしていくために、他人任せにするのではなく、組合員が自らの意思で集まり、知恵を出し合い、力を合わせて活動していくための組織です。

「国際協同組合年」では、こうした姿勢が評価され、一人ひとりが協同組合活動を通して社会に参加し、持続可能な社会をつくるためにさまざまな問題に取り組んでいくことを期待されました。一方でわが国では、目先の利益と経済成長を求め、規制緩和と効率化を進めようとする風潮が、いまだに根深くあります。

協同組合の原点である「自ら行動し、助け合うことで社会を変えていく」という理念は、今日一層の輝きを増しています。私たち協同組合は、人を基盤とし、助け合いの精神を高く掲げ、自らの意思と責任で、将来にわたって地域や暮らしを守り発展させていくための活動を進めていかなければなりません。

本日、第93回国際協同組合デーの開催にあたり、生協、農協、漁協、森林組合など、兵庫県内の協同組合に集う私たちは、私たちの身の回りから協同の関係をつくり出し、「食の安全・安心」や「環境の保全」にかかる取り組みをさらに前進させます。また、協同組合原則の第7原則に定められている「地域社会との関わり」に基づき、より一層地域社会に果たす役割を高めていきます。

そして「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、心をついて、暮らしよい兵庫と協同組合の発展をめざし、一層努力していくことをここに宣言します。



「第32回兵庫 JCC 委員会」が開催されました

兵庫 JCC =
兵庫県協同組合連絡協議会とは
【Hyogo-ken Joint Committee
of Co-operatives】

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県下の生協、JA（農協）、JF（漁協）、森林組合の4協同組合の相互交流と連携強化を目的に、第62回の協同組合デーを機に設立したもので、今年で32年を迎えます。

神戸医療生活協同組合

緩和ケア病棟開設と

「きょうごうの家」がオープン

神戸協同病院の5階病棟が「緩和ケア病棟」へと生まれ変わりました。5階は最上階ということもあり、エレベーターを降りて感じるのは、とにかく明るいということ。全体の色調は抑え、とても落ち着いた感じの病棟になりました。5月には内覧会を行い、医療関係者、職員、組合員合わせて約500名の方に見学していただきました。

組合員からは、「明るいなあ、きれいなあ、でも元気でおらんとな」「畳の部屋がある。やっぱり畳は落ち着くなあ」という声が聞かれました。みなさんの思いを集め、協力してできた「緩和ケア病棟」だから、みなさんに褒めていただいた病棟の外観に見合うようなケアを展開していきたいと思えます。



量のある病室が好評です（緩和ケア病棟）

また、昨年10月から工事を開始していたクリエイト第二ビルが6月下旬に完成。3階の一部と4階を全9戸のサービス付き高

齢者向け住宅「きょうごうの家」としてオープンしました。

坂の多い地域にお住いのご高齢のご夫婦からは「周りに坂のないここに住み替えたら同じ街で今までのデイサービスを利用しながら在宅での生活を継続できる」と思い申し込んだ」と言われま



誘い合って内覧会にお越しいただきました（緩和ケア病棟）

した。入居相談を受けていると、障害を抱えながらも自分らしく生活できる場所を真剣に探されている人々の思いを強く感じます。「病院が近い」「商店街の中なので雨でも買い物に行ける」「坂がない」という利点を最大限に生かし、入居者とともにその人らしくいつまでも元気で暮らしていける住宅を作っていくことが私たちに求められていると感じます。そして、「地域包括ケア」の一つの拠点になればと夢は広がります。

（通信員 中西一真）

尼崎医療生活協同組合

地域の福祉・介護の拠点を

組合員とともに

尼崎医療生協が地域組合員の願いを実現するために設立した社会福祉法人虹の会が特別養護老人ホーム「あまの里」を建設して9年。今年6月に虹の会二つ目の特別養護老人ホーム「立花あまの里」がオープンしました。

尼崎医療生協、虹の会では「地域の福祉・介護の拠点を尼崎西部に作る」との運動を進めてきました。建設が決まり、建設予定地では「立花あまの里」の建設のお知らせと、地域交流を目的に14年4月には「立花わいわい春まつり」を開催。虹の会職員も積極的に地域訪問活動を行いました。

14年10月に立花あまの里準備室を設置。開所までに必要なことについて目標を定め、寄付金運動、職員確保、利用者確保・宣伝行動をしました。準備室では、毎週の建設ニュースと寄付金到達表の発行と、地域組合員、虹の会全職員による地域の訪問宣伝行動を実施しました。寄付金は地域組合員や虹の会職員の奮闘も

あり、目標の5、000万円を超過達成することができました。

5月立花あまの里の落成式、竣工祝賀会が開催となり420名の方が竣工を祝ってくださいました。支部活動や各種ボランティアなど、組合員さんに利用できるように、地域の福祉・介護の拠点を地域住民、組合員とともに創っていきます。

（通信員 杉山貴士）



神戸市民生活協同組合

「セルバ甲南山手」で事業を紹介

6月29日(月)、セルバ甲南山手にて、『共済相談会』を行いました。セルバ甲南山手はJＲの甲南山手駅のすぐ南側に位置する大規模なショッピングセンターです。神戸市民生協は定期的に共済・保険の相談会を行っています。

当日は晴天に恵まれ、アイスコーヒーやオレンジジュースの試飲を行い、各種共済・保険のパンフ



地域の方々とのふれあいを大切に

レットを配布するなどの広報・PR活動を行いました。相談会の会場には東灘区在住の方々や隣接する芦屋市の方々が主に来訪されました。

兵庫県では平成27年10月1日より自転車利用者は賠償責任保険の加入が義務化となります。メディア等による周知で保険加入義務化のことを知っておられる方は増えましたが、どのような保険に加入されたら良いか迷われている方が多い印象を受けました。地域柄、自転車を利用される方が多いため、当組合の交通災害共済や個人賠償責任補償のご案内にも「こんなに安心な保障があるんですね」と大きな関心を寄せていただきました。

今後も、こういった相談会を通して地域の方々のニーズを汲みあげ、共済商品のていねいなご説明を続けていくことで、当組合により親しんでいただけるよう、広報・PR活動にいそしんでいきたいと思えます。

(通信員 鹿田裕子)

姫路市民共済生活協同組合

「避難訓練コンサート」で事業を紹介

6月5日(金)、今年度は阪神淡路大震災から20年が経ち、「災害から命を守る」をテーマに、突然やってくる地震や火災に備え、「第2回 避難訓練コンサート」が開催されました。

当日は、兵庫県警察音楽隊の楽しい音楽を聴きながら、突然火災が発生したという想定で、大ホールという広い場所で、大人数が避難する方



法を、兵庫県飾磨警察署、姫路市西消防署との協力で、地域住民のみならず、中学校、小学校及び幼稚園児たちも参加し、いざというときに備えて訓練をしました。

今年度は、また終戦70年という節目を迎え、戦後の混乱時期に「たすけあいの精神」を以って立ち上がった姫路市民共済は、これからも「たすけあいの心」を忘れず、地域に根ざした生協を目指すよう、出席者に呼びかけ、出席者全員にパンフレットを配布しました。

(通信員 山本悠人)



JF (一財) 兵庫県水産振興基金

大輪田塾 10周年記念式典を開催

これからの漁業を担っていく人材の育成を目指し、平成17年10月に開設された大輪田塾（塾長：JF 兵庫漁連 山田隆義会長）は、今秋で設立10年を迎えます。これを記念した式典が7月4日（土）、神戸市内のホテルにおいて開催され、塾の修了生・在塾生のほか、県・系統団体の関係者ら約60名が集い、10周年を祝いました。

山田塾長は、挨拶で「修了生は各漁協などで活躍するリーダーで、今後、兵庫の漁業を背負っていく人たちである。しかし、“真のリーダー”となるには、我々が経験してきたのと同様に、修了生に活躍の場やチャンスを与えられなければならない。リーダーを育てていくために今後も、県、系統団体の皆様のご指導ならびにご支援を賜りたい」とし、続く来賓の兵庫県農林水産局水産課小林孝司課長は「今後も漁業者が安心して操業していくためには、将来を見据えたリーダーが必要であり、県はこれからも出来るだけの支援をしていく」と祝辞を述べられました。また、10年を契機とした大輪田塾OB会の設立が報告され、塾1期生で同会代表幹事を務めることになった 戎本裕明さん（JF 明石浦組合長）が「修了した同期の“横の繋がり”に加え、修了生間の“縦の繋がり”を、この会でさらに深め、地域漁業の発展に寄与したい」と挨拶を行いました。

式典後の懇親会で、修了生らは久しぶりに会う同期やお世話になった県職員との話が弾み、会場は和やかな雰囲気に包まれました。



参加者全員での記念撮影

JA ハリマ

手軽に「旨み」と「こく」を味わう 丹波黒豆茶発売

JA ハリマは、宍粟市産の丹波黒大豆を使用したペットボトルの「丹波黒豆茶」を商品化し、販売を開始しました。粒のまま高温焙煎することで、うま味とこくを引き出した香ばしい黒豆茶に仕上がりました。同JAの新たな特産品として、地産地消につなげたいと考えています。

原料となる丹波黒大豆は、栽培に欠かせない昼夜の気温差と、清流が流れる肥沃な土地を生かして栽培された地元産のものを100%使用。丹波黒大豆の煮豆「まめ自慢」に続く商品として期待されています。

JA 担当者は、「奥播磨で育んだ素朴な風味を味わってほしい」と話しています。

定価は1本（350ml）145円（税込み）。JA ハリマ農産物直売所、管内の各Aコープ店で販売されています。



発売されたペットボトルの丹波黒豆茶



最近の消費生活相談事例

事業者が実施したリコール情報

新聞やテレビ等で、自動車のエアバッグやチャイルドシート、ノート型パソコンのバッテリー、エアコン、電子レンジ等のリコール情報を見かけます。身の回りで使用する製品がリコールの対象製品かどうか、どのように確認すればよいのでしょうか。

1. リコールとは

「リコール」とは、主に製造・輸入事業者が、設計・構造上の問題や製造時の不具合、表示の不備等の欠陥から、消費者への人的危害が発生・拡大する可能性があるとして判断した場合に、所管する法令又は事業者の自主的な判断で、対象製品の回収、返金、同型品との交換、無償修理等の措置を行うことです。リコール対象の製品が原因での事故が発生・拡大する可能性を最小限に留めることを目的とします。

2. 消費生活用製品におけるリコール

例えば、燃焼器具、家庭用電気製品、乳幼児用品等の消費生活用製品の分野において、製造・輸入事業者は、製品が原因での事故が発生した場合に、事故原因の調査を実施し、消費者への危害の発生・拡大を防止する必要がある場合にはリコールの措置をとることに努めるよう、法令で定められています。事故原因の調査から対象製品のリコールを実施すると判断した場合、製造・輸入事業者は経済産業省へリコールの届け出を実施します。また、リコールの内容について、製造・輸入事業者は報道発表（ホームページへの掲載）、新聞社告等を実施し、情報の周知に努めています。しかし、過去にリコールが発表されているにも関わらず、回収・修理等が実施されていない未対策の製品での火災等の重大製品事故は、毎年100件以上報告されています。

3. リコールに関する情報について

このようなリコールに関する情報については、下記の行政機関や各事業者のホームページ、新聞の社告欄等に掲載されています。家庭内で長年、使用している給湯器等の燃焼器具、電気冷蔵庫・空調機器等の電気製品や椅子等の家具、雑貨品等の住居品について、リコールの対象となっている製品がないか、一度確認してみましょう（ホームページ URL は平成27年6月現在）。

- 消費者庁「消費者庁リコール情報サイト」 <http://www.recall.go.jp/>
- 経済産業省「製品安全ガイド リコール情報」 http://www.meti.go.jp/product_safety/recall/
- 国土交通省「自動車のリコール・不具合情報」 <http://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rcl/index.html>
- 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構「安全性情報・回収情報等」
http://www.pmda.go.jp/search_index.html

（兵庫県生活科学総合センター）

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓

兵協連だよりをご覧のみなさま。こんにちは。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江です。

今年、ひょうご消費者ネットでは、姫路、豊岡、淡路の3つの地域で、シンポジウムを開催します。これまで、シンポジウムは神戸市内の会場で行うことが多くなりがちでした。みなさまのお近くの地域が会場となった際には、ぜひお越しください。みなさまとお会いできることを楽しみにしています。

さて、今回のシンポジウムは「どうしたら、消費者被害における泣き寝入りを防ぐことができるのか、消費者被害に遭ってしまったらどうしたらいいか」をテーマとして、全国から著名な先生方にお越しいただくことを予定しています。このように文字として書くと、私自身も思うのですが、難しい議論のように感じるかもしれません。けれども、そんなことはありません。わかりやすいお話と寸劇や〇×クイズなどをまじえて、楽しく学べるシンポを考えています。シンポを通して、みなさまの考えや想いを共有し、消費者が今よりも強い社会になることを願っています。

これまで、シンポジウムの開催には、兵協連をはじめ、みなさまのご協力をいただけてきました。いつも感謝しています。

今月号は、少し宣伝みたいになってしまいましたが、お読みいただき、ありがとうございました。

来月号もお楽しみに。

（ひょうご消費者ネット 理事 司法書士 吉江直記）

連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL：078-361-7201 E-mail：office@hyogo-c-net.com



MOVE

被災者に寄り添う支援を…

～兵協連 第1回「東日本被災地支援活動」報告～

兵庫県生協連では、会員生協とともに宮城県亘理郡山元町を中心に定期的、継続的な生活支援活動を行っています。今年度も、7月10日(金)～12日(日)、山元町の支援活動に、コープこうべの吉田宜子さん、全労済兵庫県本部の松田幸大さん、神戸医療生協の青手木努さん、兵庫県生協連 野間誠 専務理事、三輪薫 事務局次長の5名が参加しました。

10日夜、宿泊先のホテルに到着。大阪きづがわ医療生協の7名の方々とともに翌日の活動の打ち合わせをしました。

11日午前、山元町のJR新山下駅周辺、JR山下駅跡、中浜小を視察。その後、みやぎ県南医療生協からの支援活動チーム8人と合流し、ナガワ仮設住宅、牛橋区民会館、老人憩いの家での支援活動(健康チェック・体操・茶話会)と青葉稲荷神社の草刈りに兵協連の5人は分散して参加。午後は石巻市門脇小跡、旧女川町立病院、女川原発、JR女川駅新駅舎を見学し、あとの夕食交流会では発災以降の活動と地域の状況についてお話を伺いました。

12日は、名取市閑上地区(閑上中学校、日和山、防潮堤、ゆりあげ港朝市)を視察しました。

災害公営住宅の建設と入居が進み、仮設住宅の活動への参加者が減ってきています。今後は居住地域でのたまり場など新たなコミュニティづくりの支援が必要だと感じています。JR常磐線の線路は内陸部に付け替えられ、28年度中の完成を目指し、新山下駅と新坂元駅の建設で、少しずつ新しい街づくりが進んでいます。また、女川原発を間近で見学しました。再稼働への審査合格に向け防潮堤や建屋の補強工事が行われていました。しかし、耐震基準、津波基準、避難計画等々安全性の確保が不十分なままでの再稼働の動きに、周辺自治体からも再稼働反対の意見書が出されるなど地元の意向を尊重することが求められています。今回は、原発の現状と今後の課題について学ぶことができました。被災地のニーズはどんどん変化していきます。被災地が求める支援を息長く続けることの必要性を感じました。



女川原発を間近で見学しました



青葉稲荷神社で草刈り

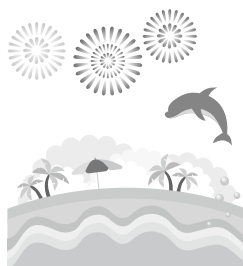
【今後の支援活動日程について】

- 第2回：9月11日(金)～13日(日) 募集4名
福島県被災地見学～支援ボランティア～宮城県被災地見学～女川原発
- 第3回：10月9日(金)～11日(日) 募集4名
宮城県山元町「花釜まつり」支援～宮城県被災地見学～福島県被災地見学
- お申し込み・お問い合わせ：兵協連事務局までお願いいたします。

TEL：078-391-8634 E-mail：hyogo@kobe.coop.or.jp

編集後記

街を歩いているだけで倒れそうな熱気の夏。我が家の冷凍庫のアイスクリームの量がドンドン増えていくのに比例して、体重計の目盛も(何故だか?)ドンドン大きな数字をさしているように感じます。扇風機を併用したり、麦茶を作ったり、冷え冷えシートをしたり、ゆつくりぬるめのお風呂につかったり…といろいろ策を講じます。いっばい汗をかいて、ちよつとヤセた気になるのはどうも幻想のようです。「暑いから体力維持のために、いっばい食べなきゃ」というのは過去の話らしく、冷たい食べ物は油分も甘味も感じにくくなるそう、やはりバランスのよい食事が大切とのこと。みなさまも、この夏、どうぞご自愛くださいませ…。
 それでは、今晩はビタミン豊富な枝豆とビールを楽しむことにします。(中尾)



県連日誌

- 8月3日(月) 兵協連第2回理事會 (県民会館 1201)
- 8月6日(木) 兵協連緊急車両担当者會議 (県民会館 ぼたん)
- 8月23日(日) 兵協連ピースアクション2015 「広島被爆ピアノ平和コンサート」 (県民会館 けんみんホール)
- 8月26日(水) 兵協連第1回共済生協部會 (県民会館 ばら)